WASON
HQ
1104
J74+

Sept. 1893
No. 354

明治廿六年九月三十日發兌

# 女學雜誌

第三百五十四號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

## 本號目錄

社説
室家に於ける利己主義
兒籃
いわひ歌(第二曲)若松しづ子
史傳
ヘンレー、ソモルセット夫人の傳
雜錄
近代最初の女醫が經歷(荻野吟子の事。鈴木源子筆記)○大西操山氏の新婚を祝ひて(戸川殘花)
理學
厄日(いけ子)
小説
春風裡(トオストイ作、不知庵主人譯)
家政
家内の貯藏法(生薑の糖藏法。茄子を生の儘に貯藏する法。松蕈を貯ふる法。)簡便なる臘乾の製造法。
女報

## 前號目錄

社説
第一回女子夏季學校閉校所感◎景況大畧◎學事及會計報告◎女子敎育者懇談會
兒藍
いわひ歌(第一曲)
家政
家内重寶錄(靴下つくろひ方○米粉のころも○簞笥の虫くひ○胡椒茄子の一夜づけ○切り傷の妙藥○絹布に泥○病人のなくさめ○麥藁帽子と油畫)○家内貯藏法(葡萄貯藏法○菓物貯蓄法○根菜の貯蓄法)田家のこよみ○園藝法
理學
燐のはなし(三)
雜錄
安息日學校の説
小説
春風裡
女報

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百五十四號
明治二十六年九月三十日發兌

## 社說

# 家室に於ける利己主義

## (一) 利己論

烈士義人の胸を悪ろくすると、利口の行爲を見聞する時ほど甚はだしきはあらず。彼の弱々しきものに對しては、不憫の情あり、愚かなるものに對しては、保護の感あり、不幸薄命のものに對しては、同情の念湧くことを覺ゆと云へども、萬物の靈長たり、天帝の愛子たる人間そのものを利用し、之を取て自己一身の益に使はんとする横着物に對しては、誰か憤怒せざるを得ん。

如此き輩は、自己を以て、天地間の王となし、あらゆる事物を擧げて、己が利益に用ひんことを要求す。天帝の造化を見るとも、其經綸攝理にして、自己の快樂幸福に相適わざるに於ては、之を不都合なりとして、信仰の念を起さず。種々の學問を研究するときも、其元理を利己樂福の所に詮究し、此より發してもろ〳〵の情義を生ずと解釋せざれば、道理を得たりと思はず。惻隱の心は、己が苦痛を感ずるより起り、獻身の思ひは、罪苦を逃れんとする欲望より生じ、子孫を愛するは、一身一家の幸ひを長くせんが爲めより兆し、國を念ひ、衆を愛するは、名と譽れとを好むの情より來れりなど講釋し得意然として、其說を辨じ、ために、書を著はし、之を以て人の子弟を教訓せんとするものすらあり、慷歎に堪ゆべけんや。

斯る主樂學說を主張するもの〻中にも、相應の理窟と、それ〳〵の階級とはあり。中には、快樂を測度するが爲めに、一種の道德寸尺を定め、可成く、人を益し、多數を益し且つ永久に續くべき益を以て、自己が爲の眞の益となすものあり。

か〻る議論は、綿帽子を冠ぶりたる醜新婦の如し。其覆面を剝ぎ取らざるうちこそ、多少床しけれ。一とたび眞相を觀




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ずれば、これも亦た醜なり。その巧みに裝ほふて人を眩せしむることそ、反りて一層心にくけれ。

夫れ、主人と家來とは異なる。家來つねに主人と共に來ればとて、之をもつて主人なりとすべからず。伴隨者は、先導者と異なり、目的は、結果と同じからざること勿論なり。故に、善を爲し、義を行ふが爲めに、利益快樂の伴隨し來るは、其結果なり、其の伴なり、たとひ、幾度び之に伴ない來るとするも、之を以て其主人とはなす可らず。義を望みて行ふと、利を要めて行ふとは、たとひ其結果に於て同樣の幸福を得べしとするも、品性の上に於て、天地霄壤の差別あり。人の爲めにするか、利己の爲めにするか、人の靈性を重んずるが爲めにするか、己が慾望を滿たさんが爲めにするか。此相違、明暗黒白の如し、天地崩るゝとも、其差別を混同すること能はざる也。

## (二) 過酷の後に放慢あり

利己の卑しむべきこと、如此く明けし。主樂學説の斥ぞくべきこと、夙とに定論あり。斯て、人間、世に生存するの目的は、その靈性を發達するにありと知り、眞の「愛」とは、人の靈性を重んじ、其發達を樂しみ、且つ之が爲めに力を献ずるとにありと知り、人生の理想、覺悟、此外に出づ可らずと承知しつゝ尚ほ、常習に驅られて、意外の謬誤に陷いることなきにあらず。例せば、室家に對する、利己主義の說の如き、即はち其一つなり。

近ごろ、ホームの語流行し、室家團欒の樂を敍すると、遺憾なき有樣とはなれり。むかしは、夫婦相愛など云ふと、何んとなく、言ふに憚かりたれど、今は反つて之を好しとし、一種詩歌的の趣むきを之に添えて、最と妙に謳歌するの情態なり。親子の間柄も、むかしは、たゞ嚴なるを尊とみ、一家に君臣の禮を施こして、威命服從の規きびしかりしに、今は恩愛慈睦の懇切りに賞えられて、親子相戯むれ相遊ぶとをもつて家風とすなど揚言して得意とするの大家あり。世態人情大方た一變せりと云ふも、敢て過言にはあらじ。

右の形勢は、進歩なりや、また退歩なりや。本來斯くあるべきものなりや、或は、然らざるか、此等の問題は暫らく玆に畧せんとす。然れども、凡そ、眞の道に相適はざる以上は、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

右にするも、左にするも、到底背理たり。後るゝも先だつも、害は一つなり。過たるを以て猶は及ばざるが如しとせば、一弊を除き去つて、他の一弊を生ずると、眞とに殘念の至りと謂はざるを得ず。

刑酷の後は、放慢あり、過嚴につぎて、遊蕩あり、僧侶主義、度を過したる次代には、世俗主義、亦た極端にはしるとかや。一家にあるまじきほどの嚴正を主張し、多年、愛情の流露を杜絶し、わざと之を壓さへて殊更ら冷やかにもてなさんとしたりしの餘弊は、一と度び西洋の新風俗を見聞するに及びて、俄然不當の制裁を取除き、鬱勃たる情愛を自由に顯現せんとて、遂に他の極端に立り、ホーム。ホーム。スヰート、ホーム。ホーム。と絶叫して、切りに、自由團欒の說を主張するに至りたり。

之れ、一左、一右の振動として、暫らく冷眼放視すれば、またく〳〵反動して、元の景勢に返り、久しく中正を得るの機ある可らず。今や、世論ほとんど定まり、室家は幸福を享くべきものと斷信するの眞中に於て、先づ一言をおどろかせて、深く世人が猛省を求めざるを得ず。

## (三) 室家伉儷の眞の目的

人、天地に住まひ、生を此世に寓するに當りては、利己、快樂を以て、目的とすべからず、と云ふと、既に明らかなるに、何故へ、室家には、堂々此目的を揭ぐるとを爲して、而もあやしとせざる乎。

親子同居、夫婦一棲の目的いづこにありや。家も亦た世界の内に存す、人世の歸趣に違ふべからず。その人靈發達を主旨とすべきと、明白ならずや。此主旨を達するが爲めには、幸福も生ずべし、子は親に仕へて其益となるべし、妻は夫に仕へて、夫の慰さめともなるべし、左れど、こは、伴隨し來るべき副産物に過ぎず。もし始めより、之を獲んとを以て、目的とせば、既に室家を立つるの精神に違反す。

世人往々曰く、女は、男を慰さめ、家を樂しくし、ホームを幸福にすべきもの也、と。然り、女自身の心得として、かゝる獻身的の覺悟を有たんと、殊勝なりと雖ども、男子が、初めより此要求を懷き、公然他に所望して之を先天的の女德の如くに言い做し、もし此德を欠ぐに於ては、女を女らしから

ずと罵りて、而も、自己が男らしくも、人間らしくもなきとに、毫も氣付かざるもの、極めて多し。

夫婦たるの主旨、幸福を得るにあるか。妻は、夫の助力を得夫は、妻の慰さめをとり、相益して自己の利をうくるを以て、伉儷の目的とすべきか。あゝ、結婚盟約のこゝろにして此外に出でずとせば、男女の相許すは、利己の爲め也、快樂の爲め也、豕が其主義とする所ろと何んぞ擇ばん。

戀愛なるものゝ誤まらるゝや久し。戀愛何んぞ快樂を貪ぼるとを主旨とせんや、戀愛の主旨は、他を愛するにあり、努力するにあり、献身するにあり。其煩悶の爲めに一種の滿足を來し、其の献身の爲めに、一種の幸福を生ずると、もとより之ありと雖ども、此の滿足、幸福あるが爲の故に、他に戀愛を寄するにはあらず。夫れ、戀愛とは、愛の一種なり。愛の性たるや、靈愛を以て最高とす、故に戀愛も亦た靈性的の愛に登らずんば、高しとすべからず。靈性的の戀愛とは、他の靈性を重んじ、其發達の有無に苦樂を感じ、その發達の爲めに、努力献身すること是れ也。たゞ、その敵を愛するの靈愛と異なる所以のものは、之に好慕の一情加わり、靈愛を露わすとの、極めて自由に、極めて熱烈なるとあるの一事相違ふに過ぎず。其愛の要素や、ともに同じきのみ。

世人數ば之を忘れ、好慕を以て戀愛とし、快樂を以て其第一素となす、歎ぜざるべけんや。

室家をつくるの主旨、單に快樂にあらば、快樂を享くると能わざるときは、之を失敗とすべき乎。夫婦相助け相慰さむるの主旨、互ひに利己の樂をうくるにあらば、此樂の享けがたき時、之を失敗とすべき乎。見よ、一國に臣たるは、其太平にして、其榮をうけんが爲めにあらず、亂世にも、戰鬪にも、貧窮にも、之に力を献じ身を許して其公益を増さんが爲めにあらずや。左らば、一小國たる吾が一家の爲めに、何んぞ、其富榮幸福をのみ望みとすべけん。艱難の時にも、一家族人たるの主旨を達するとを得べし。困窮の時にも、ホームの一人たるの目的を達するとを得べし。何んとなれば、一家の一人たる主旨は、その利己にあらずして、その献身にあるがゆへなり。

左れば、男女相擇ぶに、幸福を以て標準とすべからず。夫婦ともに棲ふに、幸福を以て主旨とすべからず。一家を整理す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに、幸福を以て、目的とすべからず。幸福は、必らず眞の道を履むもの丶爲めに現われ來るべしと雖ども、幸福彼自身を所望するもの丶爲めには現わる丶ことなし。この故に、先づ幸福を望まずして道に望み、而して自からに幸福の來るをまたんと云ふもの丶爲にも、亦同じく來ることなし。幸福は、到底、人の目的とすべきものにあらず。幸福は、風の吹くが如く、花の發らくが如く、人の知らざる間に、自づからにして來るものなり。人は、たゞ人世第一の眞主旨を望みて、身を献ずべき耳。

## (四) 實際の斷念家

感謝すべし、人の實際は、其議論と異なる。室家に幸福と利己とを求むるの議論喧ましきに拘はらず、其實際は、愛他と、献身との行をもて滿つ。

左れど、此は、止むを得ざるに發し、人々の密かにアキラメて、止むことを得ずと斷念する所ろたり。左れば、之を眞の目的に適ひたりと知り、安心平和の情をもて、之に對するもの、少なし。これ世の敎の實際に適せず、正道に違うがゆへ也。

人世は、苦戰なり、愛他なり、献身なり、室家の景况も亦然るべきものなりと悟覺したらんには、今のアキラメて止むを得ざる也と斷念せる人々に、平和を得せしむることを得ん。

伉儷は、樂しみを受くべきもの、室家は幸福なるものと望み、而して、實際の然らざるに、失望苦悶する族は、此敎をきゝて、開悟轉迷することを得べし。

少年男女も亦た、不當の所望をかけて、正しからぬ標準により、相撰ぶことを止むるに至らんか。

要するに、室家に對する利己主義の輿論は、之を一掃せずんばある可らず。

最大多數の最大幸福是れ善なりと言ふものあり。然れど、何故に此の最大幸福を望むべき乎と、問ふに及びて、他の答へ乍ち窮し、其の依然として利己主義の說たる所以、明白となるもの也。:

# 兒藍

## いわひ歌

### 第二曲

しづ子

十年の春秋が立去り、立歸り升て、またも師走になり升た。カロルはそれまでに九度の誕生日をいわひ、その度クリスマスの常盤木に蠟燭のともるを見、幼いながら、其都度、一家族の祝ひを共によろこび升た。

カロルが手づから、とうさま、かあさまの簞笥の中へクリマスの贈物をソツト入れ升たのは、漸く五年このかたで、それに付ては、前もつてから、少さき胸の中に貯へた容易ならぬ秘密が、堪へ得ぬほど膨脹し升た。その預防には、夜に入つて、カロルを寐かしつけに來た母の耳を借りて、何もかも一切の白狀をしてしまふのでした。併しさうすればとて、大秘密の價値が下がつたとは、カロルのあどけない心に、少しも思へませんかつた。

五年この方、カロルは毎年世間の子供のする通りに、赤き靴たびの大きいのを暖爐の側に掛け、その中へ色々の贈り物を入れて貰らひ、自分がクリスマスに生れた證據をサンタ、クロース(鹿に乘り、おもちやを背負ひて來るといふ老人)に見せるとて、柊木の小枝を寐まきにつけ、其夜は毛衣の仙人のことや、おもちやの包みのことや、鹿のことを夢に見、朝となれば東の白らむまへに家中の人々「おめで度う」をいひ、午になるまでには、今度貰つた、おもちやを殘らず隣りの子供に貸し、御馳走の七面鳥やおくわしをたべ、溢るゝ計りの歡樂を心に湛へて、床につき升た。

さて、此頃から、一番上のドナルド兄さんは、大學へはいつてしまひ。ポール、ヒユー兄さんも、おつかさんより丈の高い成人らしい人になつてしまひ升た。おとうさまの頬ひげも此頃は胡麻鹽ではない、白髮まぢりになり、おばあさまも、おめで度おなんなすつて、此年で四度、クリスマスを天國でまつて入つしやるとでした。

併し、ベード家のクリスマス祭は、昔しと變つて、近年さほど悦こば敷日ではなくなり升た。なぜかといふと、其の日の



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

めでたさや、有難さに一入の意味を添へた、秘藏の幼兒は、月から月を越へて、哀れな癇疾病人となつて、生れた室に寐て居り升た。生れつき、大して壯健な方では有ませんでしたが、滿五歲になつて、暫らく過ぎた中に、一寸氣がつくか、氣がつかぬ位に跛を引く樣になつたのを見て、兩親の胸は氷の刃を當てられる痛苦を感じたことが有升た。其頃から、カロルは、頻りに衰弱を覺へ、「けふは遊びに行度ないは、かあさま、おうちに居て好の?」などといつて、母に寄り添ふとなどが度々になり升た。病といつても、始めの中は、極く輕く母の心に全快の望は絶へませんかつた。「夏にでもなつたらカロルも丈夫になるだらう」とか、「一年も田舍へ遣つて置いたら、よくなるだらう」とか、「年のたつ中、だん／＼愈るだらう」とか、「醫師をとり代へて見たら」など、始めの中はいつて居り升たが、軈て醫者も藥石も効なく、凡庸の手だてでカロルの全快は迚も覺束かぬといふとが、明らかに分る樣になつて來升た。夏は幾度立歸つても、田舍の空氣をどの樣に吸ふても、天の國にありといふ絶へせぬ夏の美しさを見ずば、此幼兒を健康躰に恢復さするとは出來ぬといよ／＼諦らめた。

以前は南天の實ほど紅であつた頰と唇は、薄桃色にさめ行き、星の如くさへた眼は一際柔和に見へて來升た。これはカロルの眼が涙を通して、輝いたからのとでした。さうして、鈴の音ほどさへ／＼した、嬉しさうな笑ひ聲に代へて何ともいへない程愛らしく、哀れ氣にもまた、優しく、辛抱づよい樣な微笑が顏に現れる樣になり升てはそれが爲に、此家は隅／＼までも、キリストの幼な顏から發するかの樣な優に柔らかき光明に滿たされて居り升た。

掌の珠と此幼兒をいたわり庇ふ、双親の慈愛すら、此際、何の益にもたちませんかつた。「愛」といふものが、無益だといへば、倘他に有効物のあるなしをいふ必要は殆んど有りません。なぜかといふと、全世界を擧げて、愛に勝つて、力あるものがないからです。ある夕、子供たちが、みんな床に就いたあとで、ペード夫婦が其はなしをして居り升た。其日のとに、ある名高い醫者が來診して、一年かそこらの中に、カロルがまへ觸なく、靜かにもと來た天國へ戻るとがあるだらうと申し升た。ペード主人は、胸に蟠まる懊惱を漏さんが爲か、書齋をあちら、こちらと歩みながら、

モウ、眼を閉ぢん、見ぬ眞似をして居つても、益にはたゝない、カロルは全快らぬと定つたからナ。これほど可愛いと思ふ兒が、床に縛りつけられて、毎日〳〵寢て居るとを思ふと迚もわしは堪へられん。わしらが、どの樣に手を盡しても、取り除けて遣れぬ苦みをする處を見ては實に〳〵たまらんよ。めで度クリスマス處ろか、一年中に一番悲しいのになつちまふナア

といひつゝ、ペード主人は情に迫つて、ドッカと倚子に腰かけ顔に手を押しあてゝ止めんとすれど、はふり落つる涙を妻に見せじとし升た。

優しいペード夫人は、顫へ聲になつて、

併しチ、あなた、クリスマスは先〳〵ほど賑やかでない代り、矢ッ張り、嬉しいとは今でもあり升よ、たゝ〳〵賑やかなよりか、よつぽど宜しいじや有ませんか、それに私どもが心から、神恩の深きを感じるとが出來升もの、それに越した幸がどふ外に有ませう？苦しみは有るに相違ムいません。誰の爲かといふと、わたくしなどは、自分一身のとはモウさつぱり忘れてしまひ升た。苦しみといふはカロルを思ひ升爲計りです。わたくしがあの兒を可愛と思ひ升中に、あの兒が私どもニ人の爲にも、外の子供等の爲にもどの位なつて居るかと考へ升よ。ドナルドや、ポールや、ヒユーは情のこわい、亂暴な子供でしたつけが、けふになつてあの三人を見て御覧なさいまし、あの位の年格好の男の兒にあれほど優しくつて、兄弟思ひで、一躰に控へ目で、人のとを先にするのは滅多にムませんよ。此家には喧嘩もなければ、荒い聲一ッたてるものも有りはしません。なぜかといふと、カロルが聞けば、氣を痛める、あの通り「兄弟おもひで、柔和だから」といふんでムい升よ。男の兒たちは一處懸命に勉强し升、どふいふ所爲かといふと、一ッはカロルに敎へて、自分等が讀んだとを話して悦こばせ、度といふのなんですよ。アーお針が參り升と、お孃さまのお部屋で仕事をさせて戴き度い、自分の心配を忘れるとが出來て好から」と申し升よ。私なぞもカロルのお蔭でどの位心に益を得て居り升か、私しは、心が淸くなつたかと思ふ程でムい升もの。始終、あの通りですから、あの兒の眼にもなり耳にもなり、足にも手にも、寄掛にも成て遣なければならんのですが、其程

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

虚弱ひ我兒が、却つて親の手本になつて居り升んですもの。

ベード主人は少しく心に慰めを得たるものゝ如く、

さういわれると、矢張り、わしがわるかつた處が分るよ。不足をいふどころではない、悦んでるが當然だ、カロルの樣な神のお使が此家に宿つたのだから。

ベード夫人はあとをつぎ、

それで、わたくしは、あの兒の未來のこともさう心配するに及ばぬと思ひ升よ。あの兒は私どもの兒といふ中にも、丸で私どもについたものゝ樣には、どふしても、考へられませんもの、神さまの思召どほり、世にある間の役目を濟まし升たら、またいつなん時元來た處へお呼び戻しになるか知れぬといふ樣に感じて居り升もの……………ア、それもモウ久しいとはあり升まいヂー。

こゝに至つて、ベード夫人の方が涙にたへ入る番で、主人の方が慰める番になり升た。

# 史傳

## ヘンレー、ソモルセット夫人（一）

米國のウイラード女史に對する英國の女傑ソモルセット夫人は、現代に於ける偉人の一人たり。今や、英國婦人禁酒會々長として、ウイラードと姉たりがたく妹たり難し。眞さに是れ十九世紀の偉觀なる哉。

### 小鷺の聲玲瓏

六才の頃ろ、大宴會ありて親に伴われて宮庭に出で、女王ビクトリア陛下、皇婿コンソルトの公に侍べる。陛下、公と共に暫し歩を運び玉ふの時、少女イサベルひとり留まりて、つくづくと、玉座をながめたるが、俄かに之に就きたく思ひ、忽焉、登りてチヨコリンと腰うちかけたり。陛下還り玉ひて此有樣を御覽あり、ほゝえみて公に語り玉ふよう、「此は少女イサベルに候」と。然るに、少女は斷然、首を打ふり、眼を大きやかにして所信を告白すらく、否な、貴女イサベルに候、と。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

後ち十數年、歳月轉々し、妙齢十八九の淑女、宮に出でゝ、陛下に謁することあり。陛下よく當年の奇談を覺えさせ玉ひ、むかし、白衣をつけ、野花の環をかざりたる乙女を憶ひ起して、聲明らかに呼び玉ふらく「貴女イサベル」と。

### 鳳雛の羽の音

其妹と家庭に學を勵み、好んで怠たることなかりしとき、輿論にしたがひ、人にかくして深く愛讀せしは、ジョン、スチウワート、ミルの著書にてありき。當時、ミルは、異端なりとして、痛罵せられ、有信の徒は一概に其書を擯斥したるに、少女イサベルは、木蔭に「女子服從論」「自由の理」なんどを繙ときて、深く私淑する所ろありき。

又、米國南北戰爭の頃は、國人大概ね南方にひいきせしに拘はらず、其妹と共に北方に加擔して、奴隷の廢せられんことを祈りたり。

馬に乘りて、山野に遠く遊ぶことを好めりしが、鳥を射、獸を獵する如きことは、太しく嫌惡したり。

母の勸めもありて、遂に婚したるビウフホルト侯の次男、ヘンレー、ソモルセットとの間柄宜しからず。二十三才、一男を擧げたるのち、正當の手續を經て、別居することとなりぬ。

夫人は、イーストノー城の城主たり、ライゲート及ソマースの領主たり。人世に於て何一つ足らぬことなきが如かりしに、此一つのみは、意ふ如くならざりけり。

其後は、ライゲートに住ひして、兒を育て、鷄を買ひ、野菜を作りて、せめてもの心やりもせしが、或時、不思儀なる默示を蒙むりたり。其聲天より聞えたり。主がエリアに語り、アブラハムに語り、ダマスコに於けるポーロに語りたる御聲とは、果して此なりと思はるゝの聲、此時また夫人にも聞えたり。

### 光明燦然たり

夫人は、父の敎育にて、少き時より聖書の研究に執心し、これに其進歩的批評を好みて、ストロウス、ルナンなどの評論にも重きを置き、或る時は、一種の懷疑に陷いりて、迷雲層々として重なるの感ありけり。

然るに、或日、客ありて、午後の茶會を催ふさんとするの前刻、少焉の間をぬすみて、獨り庭園物しづけき邊に逍遙し、名高き大ひなる楡の木の影にやすらひて、多くの疑問を心中

に引起したり。神ありや、はたして無きや、果して有りとせば、吾等は何如にして出で來、又何如にして一生を送るべきものなりや、と。

かゝる疑問に專念し、四面寂然たるの時、そもや何處より聞えけん、いとも大ひなる、いとも不思儀なる聲、心魂の極底にひゞきぬ。云く、吾ありとして働け、左らば、吾あるとを知るを得ん、と（Act as if I were, and thou shalt know I am）

此の巨聲に驚ろきて、四面を見るに、四面聲なし。迷ひにてやありしと打案ずれば、又々、同じき聲、心魂の底に徹す。全身震ひ動き、一種異樣の心地して、其聲の實在、光明の如く、天地の如く、明々白となれり。而も、其聲の出處未だ知るべからず。

懼れをのゝきて、花園の薔薇の畦の間をたどりつゝ行けば、香芳、鼻をつき、聖風馥郁として、いよ〳〵心魂を驚醒し、彼聲の聖氣ます〳〵顯然たり。

此夜、夫人は、早く床に入り、ヨハネの福音書を繰反して讀めり。其著者に關する幾多の疑議は、悉々く承知せりと云へど、此時は、一の新鮮なる力、夫人を威服せり。信仰の念禁ずべからず。光明、全天全地を被ひ、煌々として八方にかゝやぐの心地す。則はち、彼の不思儀なる御聲の導に從がひ、之に全力を寄せ、あらん限りを盡して、而して其の約束をまたんと決心したり。

翌る朝た、夫人は、客に對して、簡單に然し乍ら極めて決意して、其志を告げたり。則はち、夫人は此時より引退して、靜考沈思するとせり。社會的の客は打驚ろきたり、世の知人は、奇異に堪へずとせり。交際社會は、追々に彼女を棄てたり。而して彼女の爲に追々一の世界は開けたり。彼女は、此時より、其愛兒を伴ひて、イーストノル城に入りたり。

## 第二の招集をまつ

イグナシアス、ロヨラも、モハメッドも、或る聲に打れたる後は、世より引退したり。而して、多年の沈思と、幾多の刻悶とを經て、遂に一大天職の現示を崇むりたり。當時に於ける、ソモルセット夫人も亦如此し。

イーストノー城は、マルベルン山の麓にあり。高塔雲に聳へ、鬱林の間だ、白堊を示す。田野數里に連なり、農家五々三々

たり。夫人は、城内最奥の殿裏に、愛兒と侍女とに圍まれ、たゞ止むべからざる少數の客に接するのみにて、他は悉く、沈思討究に日を重ねたり。

此間だ尤とも多く學びたるは、ドクトル、プーセーの書、及びハンナ、ホヒットル、スミス夫人の神學なり、尤とも多く同情を寄せたるはジョセフヒン、バットレル夫人なりき。左れど、何ものにも越えて第一の教となしたるは、言ふまでもなく、一卷のバイブルにてありき。

## 雜録

### 近代最初の女醫が經歴

左は、本邦近代最初の女醫荻野吟子が經歴を、女醫生鈴木源子が打きゝて筆記したるものとす。

春去り夏暮れて多感多涙なる秋の夜皎々たる明月喞々たる虫聲何れ斷腸の媒介ならざる舊懷の情亂れて糸の如し。

想ふ昔病を得て帝都に上り故の大學病院に治を請ふや蓋し余か入世の苦味を嘗め初むるの時にてありき爾後數月にして病勢一變し小腹休痛子宮の疾患日に加はる轉輾苦吟命の生くべからざるを覺るもの再三此際に於て藥を運び食を調へ病苦なるダーク子スの蔭に一點希望の光明を襄へたる予が念頭に注謝するもの獨り看病婦あるのみ待つ處斯の如くにして而かも黃金の色によりて動くとも予か煩悶を訴ふるの時に於る保護者たる彼等を見ざりき慘憺無聊なる病室の中熟ら觀じ來れば時の文相の舊慣の荊棘を縱橫に排擊して餘す處なからんとし特に彼の竹橋女學校あり優等女生七名を擢擇して海外に留學せしむるか如き例へば珍貴なる寶玉は燦爛として予か眼前にかゝれり。

悲い哉進取すべき予か元氣は病床の中空しく日と共に退く嗚呼予を如何せん衰弱する此病軀を如何夙夜睠々益樂からず。

日は且明け且暮て翌明治六年の春は還り時か命か病患聊輕快を覺えそゞろに院内を逍遙して同病者のあるあれば必ず訪れて之を慰藉するの餘地を得たり同情は至處に交互の心に湧り談熟する時常に左の一談を以て吐息せり「男醫に診を請朝夕の如何計物憂き哉」と嗚呼世幾多の婦人病者の或は男醫に接

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するを厭の餘り遂に不治の難症に陷り或は其天壽を全し敢ず無垢天邊の月一輪空しく浮雲に其光を失ひ或ものは爲に不妊性となりて無情男子に離婚の好口實を與へ然ざるも亢儷の際愛情の花徒らに散りはてゝ一家の風波男子の不道德蓋し之に根すもの多々なるに似たり此時に當り誰か一人奮て此大任に當り社會を涙と墮落の淵よりは救ふものぞ沈思之を久しふして忽ちに聞く聲なきこえの默示するを曰く請ふ隗より始めよと然れども予は退いて左の事を考へざるべからず即ち身を以て之に當らんか應ずべき貯蓄なきこと之れなり更に他によりて予か志望を告ぐるとも油燈の費猶且供する知己あるなし嗚呼此一轉瞬此一呼吸予は斷乎として決せり陽氣の發する處然り予は予が志を暢ぶるのみ萬艱を叱咜して倒れて後止むべし何をか人を待たんと。

此年予は松本萬年の門に入れり蓋し疾病二年を閲して始めて舊に復したればなり幾千もなくして女子高等師範學校生徒を募集するに會し入て五年の就學を得たり。

業卒へしは明治十二年某月。噫此間に於ける予か經歷抑も如何に悲慘を極めし、今や書かんと欲するも得ざるものあり回顧すれば百年の後苦石緣滑かなる處幸に一片同情を手むけん人あるを期して爰に詳記するを避けざるべらす。

予は爰に八方より來り集ふ新戚故舊が攻擊を打破して彌よ予が新生活の門に入らんと決せり始め先づ思へらく須く大學に入りて就學すべしと時の軍醫大監石黑忠德氏予か微衷を憐み百方盡躬するも時未だ至らずして得ず此時に當り下谷練塀町に好壽醫院なるものあり嘗て高階敬德氏の創設に係るものなり石黑氏書を致して厚く當局者に紹介し予をして始めて醫學の端緒につくを得しめたり當時氏が好意眞に予をして今日あらしめたる暗中の燈火にぞありける。

四年の歲月はいつしかに過去に屬しぬ艱苦窮困實に其間の糧たりき然れども天は容易く一人を捨ず暗黑は暗黑に繼續せざりき不測の救濟急焉として來り困厄悲痛殆んど爲す處を知らざる予をして進步の綱繩によらしめしもの抑も幾々度びぞ業成りしは今を去る十一年以前即明治十六年七月なりき直ちに書を府廳に致して試驗を請へり幾日ならずして予は召されたり而も願書は却下されて無慘左の一說に滿腔の希望を奪はれたり當分審議に及ばずと。

然れども是れ敢て驚くに足らず勿論學事は時より時に隆盛の

域に達せんとする當時なり然れども記臆せよ日本文明の賜物は男子マヅ之を享けたり然り享け得る丈け是を領して餘る處を以て始めて女子に分てるに過ぎず勿論女學校の設の多少之なきにしもあらずと雖も予をして之をいはしめば殆んど外面的の申譯けに過ぎず然からざるも西洋人が義捐に成れる私立學校の微々たるものあるのみ何が故に外面的の申譯といふか請ふ詳かに當時路にあたるもの若くは教育家を以て自任するものゝなす處を視察せば足らん彼等は新教育を享けたる女子を待つに三日目に結果せすんば根本より剪除せんといひし昔噺の老翁を學べり然りいそがずば濡ざらましを野路の村雨あとより晴るゝことを忘れたり故に僅々數年來始めて勉學の新航路を與へられたる小數の女子が卒業後世に及ぼす感化及成蹟を夙に社會より歡待厚遇せられて少くも六七年若くは十餘年の星霜を螢雪の下に送れる多數男子の實際に現せる効勞に對照して早くも失望の聲をもらし嗚呼此性急なる失望は遂に當路者を驅つて左の如く決心斷念せしめんとはしぬ曰く女子と小人は今日猶養ひ難しと是れ豈當年の一現象ならずや。

今や渴望せるオエセスは單獨旅行者の眼瞼に一映して忽ちに地平線上の暮靄とは消滅せり四顧廣茫たる沙漠の中に日は暮れぬ白砂風に起りて眼を奪ふかの如く舊故の追擊は再び身邊に集へり而も今や求むべき先旅行者の足跡なく手をとりて彼郷に伴ふ導者なし止事を得ず去つて群馬に行き伊勢崎町なる松本醫が代診として居る者半年一日面疔を愁ふる者來り診を請ふ恰も是れ、主醫病に臥し一切の屬托を受け居るの時なり此症たる蓋し衆醫が難症の一に數ふる者執刀の如何は勿論命の安危に關す加ふるに治療日後れて容易に手を下すべきにあらず予は一診せり然して後十分に局處の切開を試みたり幾程も在ず快輕舊に復す爲に一層四隣の耳目をひき以來玆に多數の患者に接するを得て不遇の中亦自ら愉快なる實驗を得たり九月辭して京に入り願書は再び呈して再び却下されたり思に予は生てより斯の如く窮せしとはあらざりき恐らくは今後もあらざるべし時方に孟秋の暮つかた籬落の菊花綾を布き萬朶の梢錦をまとふの時天寒く霜氣瓦を壓すれども誰に向てか衣の薄きを訴へん滿月秋風獨り悵然として高丘に上れば烟は都下幾萬の家ににぎはへども予が爲めに一飯を供するなし小家を出てかぞふれば早くも爰に十有餘年流浪變轉人世の苦辛既に味ひ盡せるの曉世はいまだ予をいれず世容ざるあやしむに足ず親戚朋友の嘲罵は此際一度び予に向つて湧ぬ進退是

れ谷まり百術總て盡きぬ肉落ち骨枯れて心神いよ〳〵激昂す見ずや中流一岩の起つあるは却て是れ怒濤盤渦を捲かしむるのしろなるを。

勢ひ極れは變ず親友荒川八重子あり予を落魄の淵に救へり一身を處すべき餘裕を得て爰に獨逸學の研究を事とし機の至らんことを祈りぬ。

嗚呼機會！機會早晚來らざるべからず然れども其來るや極めて遲々たり獨座孤窗の下不遇を嘆ずる予の心に後れて進凡そ幾百步ぞ然れども獨り時日のみ予が心に先んじて急奔せり明治十七年は明けぬ一日知己高島嘉右衞門氏を訪ひ計るに一身の前途を以てす氏爰に書を衞生局長長與專齋氏に致し予に直接に志をいふを得しめたり裝飾なき難困六年の余が歷史談と一片の丹心は氏の懇切なる周旋を買へり七月に及んで三度願書を致するや見よ〳〵天候一變積鬱せる雲霧一時に發して多年の宿志なるの日は來れり定期開業試驗は予をして其席に達するを赦せり。

此際に於ける予が心は非常なる恐惶滿てり蓋し困厄落魄は予をして直接に斯學に心月を注ぐ能はざらしめしが年余不幸にして逭回落第する事あらば上は未曾有なる新請願に再應三應驚かせたる官に對し下は後進姉妹に向て抑も如何今後女子敎育の盛衰と日本婦女子の元氣の消長は實に予が此一擧に係るものなり。

覺悟するもの斯の如し以來社會は余が一擧手一投足に注目するものあるが如く舊故の嘲笑は絕えず耳邊に轟然たるを覺えいひ難き感慨の間に予が試練の炮烙は近けり。

後幾干ならず府廳は試撿及第者の姓名を公示せり噫夢か非か予は其中の一人なるを得たり。

翌年三月更に後期の試撿場に列せり揭示場は今年も多數の及第者を世に紹介せり而して女生の名は同じく唯一ありしのみ本鄉三組町之れ予が卜して社會に第一戰を試むるの陣營なり之より先き數日予は一通の書を得たり之れ予が母の病ひを報ぜる故鄉よりの音づれなり。

初め予の母は予が十九歲の時寡婦とはなりぬ以來周圍擧りて予が行爲を批難する時も淚を呑んで心長くも予が成功を待てり予は爰に始めて獨立の糊口を營むを得べく以て彼女が多年希望の天地に入らしむるを得べき今日に當り危篤なる其病苦

を故山埼玉に訪はざるを得ざるに至れり嗚呼予は此不幸なる境遇に立てり二日の後予は氷の如く冷かなる其耳邊にゆるし玉へと呼ぶの外甲斐なき歸省を試みしに過ざりき。雨風晴曇日に同じきなし同じからざる蓋し宇宙の原則なり獨り見よ人世千古如何に常に傷心の事多きや嗚呼傷心嗚呼落魂抑も幾多の人を玉成し更に亦幾多の人を瓦變せしめしぞ觀じ來れば夢の如く幻の如き可憐こしかたの我れに接するか中月は西山に影をさめ虫の聲も哀の庭にかれ〳〵て夜いよ〳〵さびし。

## 大西操山大人の婚禮をことほぎてよめる新躰の歌

菊月なかの六日　戸川殘花

白雲は男のこゝろ
　大空は女のこゝろ
空は澄み雲はまゝなり
　塵の世のけがれにそまず
とこしえにはなれぬためし
秋の日あしはゝやけれど
指をる身にはなんのその
はつ雁が音もかのひとゝ
われとのかためを傳ふなり
萩のした露きよきにも
つまの心をしのびつゝ
人を松虫きり〳〵す
切なるおもひは面白や
敷嶋の大和心を
　ひとゝはば旭の富士に
あし田鶴の遊ぶすがたぞ
　九皐に翅ならべて
にしひがしならし給へや
底ひもしらぬ淵瀬より
まことの岩に登りきて
龜の尾ながく敎ふべき
君はまなびの枝折なり
めでためでたの妹背よ
やがて雛鶴千代〳〵と
袖にもつれつ裙につき
その數よめば千羽鶴

# 理學

## 厄日

馨子

初秋風に散りそめし桐の一葉も、十枚二十枚數を重ね、楸の枝にかゝる莢、尺餘に延び、籬にそうて繁る秋の千葉、あわれにやさしく、百種の調を奏る秋野の虫の音、今はいと老ひまさりゆき、いづれも秋深き色ならぬはなし、此しづかにすぐれたる風光のたゞなかに、搆へたる草の屋あり、滿面に笑を湛へ、茶菓おしならべてすゝむるは、主人の乙女なるべし彼の女云ふ、主「此野邊に穂波そろへて、たもとゆたけに招く尾花に愛で、御渡りありしか、問ふ人も絶てまれなる賤が伏屋も、今日は俄に光を添へ侍りぬ、終日うちくつろぎて、談り暮し侍らむ、」客の夫人ねむごろに語を返して云ふ 客「此日頃都の塵に染み、二六時中、煩しき世事に驅られて、暮す身にとりては、清き涼風を袖にうけ、草葉に玉ちる露、蹈み砕き、眠界に餘る稲穂の波のよせくる樣を眺めつゝ、隔て心なき友籬を訪ふ、樂しさ嬉しさは、管々しう申し侍までもなし、殊に樂しみは、此れのみかは、此秋の日を、珍かなる數〱の御物語に、かたり暮さんとは、なか〱に甲斐あることに、存じ侍る、さて過る厄日は如何に暮し玉ひしぞ主「知り玉ふ如く、二百十日は早稲、二百二十日は中稲、二百三十日は晩稲の花盛にて、たつくる人が、ひとゝせ中の心づくしを、空しうなすも、甲斐あることゝ爲すも、此三日の日並みによるものとか承りぬ、其故は此稲の花のまさかりに當り、つれなき風に、花の粉を吹きちらされなば、實を結ぶこと少く、みのりあしゝ、殊に雨なき風を厭ふとか申しぬ、さるに今歳は、二百十日二百二十日は、ともに雨風のなやみもなく二百三十日には、一時雨に緑の色を、洗ひ清めしのみ、喃、いかに、幸多き歳に侍らずや、そを祝ひてか村人等は、其日の生業を休め、此處彼處につどひ、酒くみかはし、田舍歌の聲いと樂しげにうち興じ、なれぬ我等の耳を驚かし侍りぬ、客「田舍歌とや、そは定て面白きことなりしならめ、自然の調、自然の音聲、自然の呂律、聽き所多かりしならむ、世話に云ふ

二八月は航海をのべよと、いかなれば、此頃はさる暴き風ふきすさみ侍るや、きのふまでよもぎにとぢしばのとも、野分にわるゝ岡のべのさと、とかよめる野分も此頃の風に侍らむ、主「陰歴の二月八月の頃は、彼の氣候風と、貿易風のふきかはる時節にて、風位定まらず、東西南北とふき廻し、恐しき颶風ふき起り、黒烟勇ましう千里萬里の蒼海原をけたて、月にたらぬ僅かの日に、此地球をも、一回はづべき巨船を、瞬間に千尋の底の藻屑と爲す、それ故に此頃は、痛く航海を恐れ侍る、野邊ににほふ秋の錦も、無情く吹きちらす、野分の風も、復これならむ。

## 小説

### 春風裡

トオストイ作。

不知庵主人譯。

其六　（下の二）

良人は其時恰も書物に餘念なく、自分を鳥渡見たばかりで更に筆を休めぬから、自分は何分面白からず感じて、話掛けもせず傍の書籍を取ッて見た。

頓て其手を休めて自分を見て『カシヤ、お前はどうかしたナ』と云つた。

自分は冷かにヂロリと睨視めたが、其無言は恰も『貴夫に關つた事ッぢやァない』と云ふと同様であッた。

良人は首を掉て莞爾としたが、笑に答ふるに笑を以てせざるは之が初めてゝある。

『貴夫は今朝ッからどうかなすッたノ？』と自分は訊ねた、『何故何とも仰しやらないノ？』

『何でもない事さ。土地の男が一人都へやられたンダー』

自分は良人が言終るをも待たで、『それなら今朝、何故朝御飯前伺ッた時に仰しやりませんの？』

『其時は苦んでたから、どンな馬鹿な事を云ッたかも知れんよ』

『だッても、其時に伺ひたかッたワ』

『なぜ其時に？』

『なぜッて貴夫は痛く心配なさる時には却てわたしを邪魔者



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の樣に思ふてだもの』

『そんな事を思ふもンか』と筆を投出して良人は、『私は思ッてるよ、お前がゐなからうもンなら活きてる瀬がないといふもンだ、私の爲にはお前が帮助になるどころぢやァない、お前のお影で活きてる樣なもンで、本統にお前斯うやッて面白く愉快に暮されるのは全くお前がゐるからだ、本統にお前――』

『さうでせうとも、さうでせうとも、貴夫はあたしを子供だと思ッて、甘い言ばッかり云ッてらッしやる』と良人の言葉を遮ぎッて良人が喫驚して自分の顏を凝視めたほど脹れ返ッて、『どうせ妾は意氣地がありません、役には立ちません、貴夫の樣に何事にも辛抱强ひといふ譯には――そりやァ其筈です、貴夫は勘辨强く――』

『カシヤ、まァ聞け』と口早に自分を制して自分のお饒舌を止め『私たち夫婦は――』

『いゝえ、何にも聞きたかァありません』と自分は答へた。實は良人の口から嬉しい言葉が聞きたいのは山々であるが、わざとらしくスネて見せて、『わたしはモゥ遊ンで暮すのは嫌です。あたしは貴夫と一緒に眞面目に暮したうございます、云はゞ貴夫と同等の位置になッて、又同等であるべき權利があります』

と爰で不意に言葉を切ると共に、思はず顏に紅を潮したは自分が少し、言過ぎた事に氣が注いたからである。

『何故お前と私と仝等でない？　飮んだくれの百姓どもが騷いだ話をしなかッたからかネ？』

『夫ればッかりぢやァないワ』

『よく考へて呉れッ』と良人は言葉を次ぎ、『私は長い間の經驗で、能く知てる、そンな事は極つまらん樣ではあるが案外に大變面倒臭く厄介なもンだから畢竟はこンな事まで話してつまらない心配をさせたくないのが私の性分だ』

『御もつともさまです、貴夫の仰しやる通りです』と自分は氣早に云ッた。で斯くの如く心がモシヤクシヤしてゐるにも關らずセルギイが一向平氣で澄まして居るのが自分には腹が立て堪らなかつた。

『カシヤ、どうかおしか？　私の云ふのは道理だとか道理でないとか云ふ事ではない。お前は氣分でもわるいか、夫とも

何か氣に入らん事でもあるか。そンなに急いて返事をしないで、トックリ考へて私がどンな氣に入らん事をしたのか云つて呉れ』

　斯うなると何と返事していゝものか？　如何して心を打明けるものか？　忽ち良人が自分の心を察し、其前には子供の様になり、どうしても何事も良人でなければ出來ぬといふ考へが一層自分を苦めた。

『貴夫に何ンにも不平な事はありません』ト自分は答へた、『けれども貴夫、あたしァ本統に全じ様な事ばッかりしてヱるのが嫌になつちまいましたワ。ダカラ貴夫、こんなに遊ンでないで最少しどうかしたいと思つてますけれど、矢張さうも行かないからあたしァ本統に面白くないと思ふワ』

　斯う云ッて再び前の様に凝視めると、矢は確かに的中して、見る〳〵苦悶憂愁の色が其顔に現れた。

『カシヤ』と低音で、深く感動した聲で、今斯うやッて話すのは決して戯謔ぢやァない。極眞面目な話だ。二人の未來の幸福は皆此一事に關はつてると云てもいゝが、何故お前はそんなに私を苦めるのか分らない』

『なんでもないワ、貴夫が何でも彼でも話して下さりやァ濟みますワ、どうせ妾は能く知てるンですもの。しかし貴夫の仰しやる事は御道理ですよ』

自分は恰も或る、他の精靈が自分の唇を借りて云ふ如く極めて冷淡に言放した。

『そイぢやァお前が何も彼も知りさイすりやいゝといふンだネ』と渠は震へ聲で云つた。

　自分は思はず泣出した、何故だか其理由は分らぬが、兎にかく情なくなつて我知らず泣出し、餘り言過ぎた事を慚愧し且つ後悔し、確かにセルギイが腹を立て自分を睨みつける事と想像して。恐々面を擧げて良人の顔を見ると、例の如く穏やかな柔しい眼をして自分を見た。

で、自分は滿身嬉しさが籠上げて良人の手を取り、『堪忍して下さい、あたしァ本統にタワイもない事を云ッて』

『能く分ッた、お前の心持がスッカリ分ッたよ』

『それぢやァどうするノ？』

『どうと云ッて、是から聖ペテルスブルグへ行かう。モウ別に差支はない筈だ』

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

『それではどうなりとも』

良人は斯く云て自分の手に接吻し、『私が悪るかつた、勘辨おし』と柔しく云ッた。

其晩自分はいつもよりは長く「ピヤノ」に向ひ、セルギイは部屋の中を運動して口裏にセルモントフの句を吟じてゐた。

"But he, the fool, he longed for the storm,
As if in the storm his rest to find."

(渠れおろか者は暴風雨を待てゐた恰も其暴風雨の中に安心をほめんとするが如く)

『本統にセルギイはエライんだワ、剛い樣でもあるし柔しい處もあるし、こんな人を良人にしてどうして操を盡したらよからう』と自分は獨り心中に思ッた。

頓て一緒に手を取て運動に出掛け、いつもの通り甘ッたれてフザケ散らして、其擧句にそッと爪尖立ッて部屋に歸ると待兼ねたデシイトリイ、シデローフは茶の支度をして自分達の歸りの遲いのをプリ〳〵してゐた。

是から二週間後には自分達夫婦は聖ペテルスブルグの都に於ける遊歷者であッた。

# 田家のこよみ

畜耕子編

## ○園藝法

### 第拾八　枝接の季節

嫁接の季節は果木の種類により多少の差異あるべしと雖ども、通常砧木の津液環流を始むるの候、即ち萌芽膨脹して將に發生せんとするの季を以て好時節とす、此時期は僅に數日に過ぎざれば、數多の嫁接を爲さんとするときは、少しく此時期に先だつて施術に着手すべし、桃、櫻、李等の如きは早春萌芽の未開の時に行ふを以て利ありとす、梨、林檎の如きは晩春に至りて施術するも妨なし、而して接穗を爲すべき枝をして萌芽を開かしめず、且其生活力を失はしめざる樣に貯藏するときは、砧木の葉の開きたる后に嫁接するも亦可なりとす、葡萄は其萌芽の開かざる前に旒口より多量の津液を滲出せしむるものなれば、開葉の后に行ふを常とす、凡て接木法を行ふに最とも適切なるは氣候溫和にして屡々降雨ありたる時を可とす、

### 第拾九　接穗貯藏法

(一)接穗を野外に貯はえんには、乾燥なる土地に穴を堀り、粗朶を横列し其上に接穗を置き、蓋なき箱を顚倒して、之を覆ひ土を以て箱を埋むべし、

(二)又、砂性の乾燥なるなる地に穴を堀り接穗を斜めに埋め、周圍より土を掻き集め中央を高くし、其上に藁薦を覆ひ雨水の排除に便ならしむべし、

(三)接穗を冷陰の地に貯ふる法は、家屋藩籬等の北側の冷陰にして、且濕氣なき場所に穴を堀り枝の全部、或は半を斜に埋め薦を以て之を庇ひ、風雨日光等に觸れしめざれば數十日間其生活を失はざるべし、

(四)接穗を穴藏に蓄ふるには、穴藏の土壤乾燥なるときは接穗の礎部を少しく土中へ挿入するの外、他に注意を要せずと雖ども、土壤もし濕潤なれば、蘚苔、泥炭、砂土等を盛りたる箱の内に埋むべし、但し多量に用ゆるときは鬱蒸するの恐れあり、

# 家政

## 家内の貯藏法

淡海子

### 生薑の糖藏法

生薑の根の糖藏法は、新根を十月頃に堀り採りて皮をよく剝ぎ去り、鍋中に蒸溜水百匁に剝篤亞斯十匁を加之、攪擾して生薑の根を投入し、一度沸湯して鍋を下し放冷す、又之を器中に入れ蒸溜水を注ぎ置くと三時間許にして、笊籬中に取り揚げ水分を能く乾かし、糖汁を以て煑ると數時間にして、糖汁稍や減少せしときは火上より鍋を下して、又翌日糖汁を注入し程よき火勢を以て煎熬し、而して之を放冷して別器に取り出し、其器少しく傾け置くときは糖液流瀝すべし、然る后ち三日許り陰乾して貯ふ。又生薑を片々に切り沸湯を注ぎて水分を乾かし、糖汁を以て煑る法あり、是れは大坂及び東京に於て販賣するものなり、

### 茄子を生の儘に貯藏する法

稚き茄子を蔕と共に長く切り取り、桶に滋少許を入れて其上に目の荒き簀を加え茄子の蔕の切口の滋に浸る樣に簀の上にならべ置き、其蓋を密封すべし、かくすれば數月を經るとも色味共に變ることなし、又茄子を一年間貯ふるには細砂壹斗に鹽四升を混じ、之に新鮮なる茄子を漬ければ年を越ゆるも其色を變ずることなし、但し之を用ゆる前には鹽出しを成して食用に供すべし、

### 松蕈を貯ふる法

松蕈を貯ふるには、先づ新鮮なるものを撰び、土砂の附着したる部分を削り去りて、水を以て能く洗ひ笊籬に入れ、極めて清淨なる水の沸湯中に投じ、直に引き揚げ水分を乾し置き、別に水一升に食鹽四合の割合を以て釜にて焚き、之を冷却せしめ置き、前の松蕈を瓶に詰め、冷めたる鹽汁を適宜に注入し、其上に松葉を覆ひて蓋を爲して瓶の口を密に閉ぢ空氣の漏れざる樣に注意すべし、斯くなして寒冷なる室の暗處に貯わへ置かば年中の用に供することを得べし、

### 簡便なる臘乾の製造法

下總國下の牧　酪農生

簡便に臘乾を製するには、羊、豚等の臀部を最良とす、肩部は之に次ぐ、而して其孰れを問はず成るべく肥大なるものを取



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り、之れに食鹽の能く乾きたるものを數回擦り入れて、麻布の袋に入れ窖中に埋め置き（窖は一尺四五寸四方の深さにして濕氣を受けざる處を撰み、内に籾を三寸許り敷き前の布袋を入れ、其上に蓆又は藁の清潔なるものを覆ひて、窖を密に閉すべし）而して一週間の後採り出して、濕りたる食鹽を除去し、更に又食鹽を擦り入れて、又窖中に投入す、斯くなすこと四回にして、後水にて洗ひ能く壓揉して水氣を去り、二週日の間烟筒の傍らに掛け置き、烟氣を含ましむべし、斯くして一二回を試みなば此技に熟練するとを得べし、

## 書架

### ○女子國文

今泉定介氏の編輯にて、東京吉川半七方より出版し、四卷にて終る。例言に云く、古人はおのづから古文をなせり、今人はいかでか、今文を作らざらん、又それがうちにも、男は自から男の文あるべく、女は女の文あるべし、素より小學校などにては、男女同文にてもありぬべけれど、やゝ進みては、男女を異にすべきは言語の上によそへても知らるべし、然るに、世の所云る高等の女學校に行はる、國文の教科書を見るに、大方は男子と同樣のものゝみ也、さては其文躰といひ材料といひ不適當なるものなきが如し、故に予は專ら意を茲にそゝぎ、はじめ二卷は普通躰の文をあつめ、三四の卷に至りては中古の文と歌とを載せて、ひたすら女子に適せしめんとをつとめたりと。汎く集められたりといへど、亦偏たりと思はるゝもなきに非ず。但だ、かゝる主旨をもつて實際編輯せられたる書未だあらざればなか〳〵に重寶とすべき也。

## 片々

### ○中島湘煙女史

伊太利の風光、久しく此の詩人と伴侶するとを許されず、羅馬の熱、こゝろなく其錦謖を破り、肺に病ひを負ふて、女史は、遂に歸國するとなり、長城先生、これを伴ふて、本月十一日、横濱西太田山莊に安着せり。

### ○ギウリキ女史

生れは支那人たり、西洋の人に養われて長じ、今は日本の人の籍に入り、近ごろ四年、米國マウント、ホリヨーク、女子大學に學びたる宮川ギウリキ、マサ女史も亦た歸朝し、直ちに神戸英和女學校に還りたり。

### ○松田みち子

奬學金候補に及第して、米國プリンモア女子大學入校の爲に渡航したる松田ミチ女史、恙がなく安着し、みち〳〵の感慨をもらして一篇の血文を寄せらる。同じく、米國の某女子大學に學ぶ本邦某女史の報告とあわせて、次の二三號に分載せんとす。

### ○成功の秘訣

前號の評論に揭げたる、「成功の秘訣」の文の下に、植村正久と署名したるは、リー氏原作抄譯の誤也。

### ○日本の花嫁

婦人矯風會員も亦會議して、「日本の花嫁」を絕版せんとを、著者、田村直臣氏に忠告するとに議決せりとぞ。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 女報

淡海子編

●御註文品の出來　先頃皇后陛下御居間御裝飾用さして、特に宮内省より共立女子職業學校へ御註文相成りし造花の内桔梗、百合、薔薇、紺菊、芙蓉の五種は愈々出來したるに付此程宮内省へ納付したりさ云ふ、

●女子家庭訓乙夜の御覽に入る　司法大臣秘書官中山寛六郎氏は、自著女子家庭訓を宮内大臣を經て　兩陛下に献納し奉りしに、畏くも御學問所に留め置かせられ給ひしさ承る、

●公私立學校及生徒數　東京府廳に於て客年中府下公私立學校及び生徒の人員を調査せしに、公立學校は二百十八校、生徒總人員二万九千五百七十八人、又私立學校は四百六十二校にして、生徒數三万五千〇三十六人ありさ云ふ、(東京日日)

●北條侍從を女子職業學校に差遣はさる　北條侍從には聖意を奉じて、去廿一日午前十時一ッ橋外なる共立女子職業學校に臨み、授業管理の摸樣を熟覽し、且つ生徒の製作品を差出すべき旨の聖旨を傳へられしに付、同校にては光榮此上なしさて不日裁縫、刺繍、造花等各科の製作品を天覽に供し奉る筈なりさ云ふ、

●四回目の養蠶　四ヶ原農事試驗場長農商務技手澤野淳氏は、本年秋蠶成繭後更に一種の蠶兒を飼養せんさて、目下試驗中なるが本年始ての試育にも拘らず經過頗る良好なる由にて、其結果充分なるに於ては其方法等詳細なる報告書さなし、當業者にも勸誘する筈なるが、右の如くなれば春夏秋蠶の外、尚ほ養蠶し得べき期節あるに至るべしさ云ふ、

●櫻井ちか子氏の米國行　基督の摸範の著者なる櫻井ちか子氏には、去る十五日發の郵船にて米國に出發せしが、同時に日本婦人禁酒會長矢島かち子氏の依托を受け、其代表者さ成りて「シカゴ」府に開設の萬國禁酒會總會に出席せらるゝ筈なりさ云ふ、元來櫻井氏は禁酒事業に熱心にして、殊に故「ウエスト」孃渡來の砌にも、北海道にて其運動を助けし緣故もあれば、氏は今回の總會には最も適任の人なるべし、(禁酒新報)

●佐竹貞俊の妻　佐竹貞俊は、鎌倉北條氏の臣なり、高時亡びて後、貞俊は千葉忠顯に依りて京都に下り、後阿州に到りてその罪を待ちしに、評議の末、遂に死を賜ふ事に決したり、貞俊則ち僧を招き、累世傳ふる處の名刀一振さ、遺書一通さを併はせて、故郷に送り屆けんことを托して自殺せり、妻その遺書を得るに及びて、悲嘆やる方なく、やがて、

たれ見よさ、かたみを人のさゞめけむ。
たえてあるべきいのちならぬに。

さの辭世を遺し、夫の遺物にさて送られたる名刀もて咽かき切りて死したりさぞ、(新教育)

●琴香女史　十二歲の處女琴香女史は去日富山縣尋常師範學校へ出頭し、女子部に於て教員諸氏の需めに應じ數葉揮毫したるが、隨分好評にて其容貌態度は天晴女丈夫さ見受けられ、教員諸氏が種々賜り立つるも中々負ける摸樣なし、尙ほ暫らく當市に滯在各有志者を訪問せんさ云ひ居れり(富山日報)

●束髮さ赤熊　擯斥すべき風俗は赤熊の流行なり、昔の赤熊は娼妓のみ結ひたる髮にして、死人の髮を以て製したる者さは聞けり、故に其毛は縮れ其色赤色にして羆の毛に似たるより名つけしならん、唯々其髷を大く見せんさするに、兵庫唐輪より安上りなる處より之を用ひたる者なるが、今は藥を以て染るが故に、色だけは黑くなれども、死人の毛なれば縮れば直ることさなし、藥にて染たる黑さは光澤なくして惡く黑く、且縮みたる毛なれば、如何に似合はしき毛色の婦人にても地毛さ同じく見ゆるはあらず、一見して其風の娼妓然さして卑しげなるに嘔吐を催さゞるはなし、殊に可笑しきは、未だ髮の赤き十歲内外の娘が、黑き赤熊を以て豹尾續貂の髮を結び居るは猶更以て噴飯に堪へざるなり、十歲位の小女は髮が少しさて恥かしくはあらぬに、色の違ひたる附髮を以て天然の美を害するは、之を結ふて遣る親達の馬鹿なり、出世前の女の頭に死人の毛を載せて心地好きや如何、(經濟雜誌六百九十號)

●結婚離婚屆出數　東京市十五區に於ける、本年七月中結婚離婚屆出數竝同年齡別は左の如し、

結婚離婚屆出數

| | 結 | 離 |
|---|---|---|
| 麹町 | 一八 | 五 |
| 神田 | 五〇 | 一四 |
| 日本橋 | 六七 | 一九 |
| 京橋 | 三二 | 五 |
| 芝 | 五六 | 一三 |
| 麻布 | 一五 | 四 |
| 赤阪 | 二〇 | 一一 |
| 四谷 | 一四 | 一四 |
| 牛込 | 一五 | 四 |
| 小石川 | 一五 | 六 |
| 本郷 | 三六 | 六 |
| 下谷 | 三九 | 一三 |
| 淺草 | 六三 | 二〇 |
| 本所 | 四四 | 三二 |
| 深川 | 三一 | 一五 |
| 總計 | 五一五 | 一五八 |

●結婚離婚年齡別

| 男＼女 | 十五歲以上二十歲未滿 結 | 十五歲以上二十歲未滿 離 | 二十歲以上三十歲未滿 結 | 二十歲以上三十歲未滿 離 | 三十歲以上四十歲未滿 結 | 三十歲以上四十歲未滿 離 | 四十歲以上五十歲未滿 結 | 四十歲以上五十歲未滿 離 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 十五歲以上二十歲未滿 | 三 | 一 | 九六 | 一五 | 二三 | 三 | \| | \| |
| 二十歲以上三十歲未滿 | \| | 一 | 一五一 | 三九 | 一〇四 | 二六 | 二一 | 五 |
| 三十歲以上四十歲未滿 | \| | \| | 八 | 三 | 四九 | 二〇 | 二二 | 一七 |
| 四十歲以上五十歲未滿 | \| | \| | \| | \| | 三 | 三 | 一四 | 八 |
| 五十歲以上 | \| | \| | \| | \| | \| | 一 | \| | 一 |
| 男計 | 三 | 二 | 二五五 | 五七 | 一七九 | 五三 | 五七 | 三一 |



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五十歳以上 | 結 | ｜ | 三 | 六 | 六 | 四 | 一九 |
| | 離 | ｜ | ｜ | 六 | 五 | 四 | 一五 |
| 女計 | 結 | 一二二 | 二七九 | 八五 | 二三 | 四 | 五亖 |
| | 離 | 一九 | 七一 | 四六 | 一六 | 六 | 一兲 |

●東京市養育院寄付金品數　東京市養育院へ、去月中寄付セシハ金九十圓六十錢物品二十八點、此見積價額二百九圓五十七錢人員四十五人外ニ寺院教會二なり、(三件官報)

●子守教授　埼玉縣大里郡大幡小學校長田中利三郎氏が、曾に同郡三尻尋常小學校に在りし時、實施したる子守教授の方法を聞くに左の如し。

人員。　は初めに九人なりしが、數日にして十二人となり、漸次增加し、一時は四十餘人の多きに及べり。學科。　は修身口授、讀書、習字の三科とせり、然れども、子守の片手業なれは、何れも簡單卑近なるものを選び、最初は、修身にも、讀書にも、習字にも、同一文字を授けたり、同一文字とは、即ち福羽美靜氏作いろは歌是れなり、而して教授の方法は、先づ之れを暗誦せしめ、次に其の意味を口授し、終に其の頭字丈けを習はしむ、例へは初日には「い」の一字を習はしめ、次日には「ろ」の一字を習はしむるが如し、其のいろは歌を執りし所以は、元來同地方の子守歌として慣用せらるゝもの、多くは卑猥にして、何れも贈芍採蘭を教ゆる樣ならさるはなし、之れが爲めに良俗を泯滅すること尠少ならす、即ち首として之れを改良せんとて、此の歌を用ゐたるなり、而して是れ最も創業者注意の要點たり。時間。　は日々尋常小學校放課後、即ち三時より四時迄の一時間とせり。費用。　は凡べて寄附を以て支辨するの組織とし、石盤五十枚、其の他相當の筆紙墨類も備へ置けり。教師。　は同校教員を以て補充し、一切無報酬となせり。困難。　只困難なるは、彼等が背上に眠むれる、無心の嬰兒は、痴夢時に一覺して、呱々として乳を求め、又突として糞尿を洩すあり、更らに困難なるは、彼等は他に專業あるものなれば、登校時間の一定し難きことなりき。結果。　として得たる利益は、文字習得の如き、猥褻の俚謠を歌はさるが如き、直接利益は云ふに及はす、更に間接の利益を擧くれは、是れ迄學校を以て監獄の如く忌み恐れ、就學を肯せさりし頑兒も、不知不識の間に學校の何たるを解得し、新に入校せしもの多く、又子守の際、嬰兒に對する取扱の溫和と爲れる如き、其の他直接に間接に、風教上に生し來れる利益は鮮少ならす。(新教育)

●寛政年間の洗湯　近かく德川末路維新前後の頃はひは、男女の洗湯入り込みなりしかば、ましてや其以前は是に制限なかりしが如く思ふものあれど、近刊の東京經濟雜誌によれば、寛政三年亥正月廿七日世の風俗宜しからすとありて、男女入込相停むと、あり、(東京經濟雜誌六百九十二號)

●女子高等師範學校

| | 新官制 | 舊官制 | 增 | 減 |
|---|---|---|---|---|
| 校長 | 一人 | 一人 | ○ | ○ |
| 訓導 | 九人 | 十二人 | ○ | 三人 |
| 教授 | 十人 | 十二人 | ○ | 二人 |
| 舍監 | 一人 | 二人 | ○ | 一人 |
| 助教授 | 三人 | 四人 | ○ | 一人 |
| 保姆 | 七人 | 五人 | 二人 | ○ |
| 教諭 | 四人 | 五人 | ○ | ○ |
| 書記 | 五人 | 六人 | ○ | 一人 |
| 助教諭 | 八人 | 十人 | ○ | 二人 |
| 合計 | 四十八人 | 五十七人 | 二人 | 十一人 |

(教育時論)

●高等養蠶傳習所成蹟　京都府下蠶絲業組合に於て設立せし、高等養蠶傳習所は二十六年度地方費を以て補助せしものにして其成蹟左の如し(京都府)

| 種類 | 下蟻月日 | 上簇月日 | 飼育日數 | 蟻量一匁に對する給桑量（匁） | 上繭（斗） | 同功繭（升） | 下繭（合勺） | 合計（斗） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 赤熟 | 五月四日 | 六月七日 | 三十三日十八時 | 四九、六〇〇 | 二八八〇 | 三七〇 | 四〇 | 三二九〇 |
| 青熟 | 五月四日 | 六月七日 | 三十三日二時 | 四八、一三一 | 二六八〇 | 五七五 | 五八 | 三三一三 |
| 又昔 | 五月四日 | 六月八日 | 三十四日二時 | 四六、三〇〇 | 二八〇一 | 二二四 | 四六 | 三〇七一 |
| 小石丸 | 五月四日 | 六月八日 | 三十四日十八時 | 四四、九五六 | 二六七三 | 三九五 | 三八 | 三一〇六 |
| 支那種 | 五月四日 | 六月三日 | 三十日十時 | 三三、〇四六 | 一九五〇 | 一一七 | 五二 | 二一一九 |
| 二化蠶 | 五月二日 | 六月二日 | 三十日二十二時 | 三一、一八二 | 二四六五 | 五四五 | 一七 | 三〇二七 |

各種とも生徒一同の飼育成蹟平均量を算出せり、而して收繭は蟻量一匁に對する比率なり。本年春蠶期一二齡間は天氣晴朗なりしも夜間は寒冷にして、外溫四十度に降ること屢々あり甚しきは三十八度の低度を示せり、殊に晝夜とも乾燥に失するの恐れあり、三四齡には南風頻に起り飼育上頗る注意を要し、五齡に至りては雨天且つ曇天多く採桑貯桑等稍々困難を感ぜりと雖も、蠶室具貯桑場等の準備整頓したるを以て幸に好成蹟を得たり。桑葉は害蟲少く繁茂佳なりしと地方一般の養蠶稍々不作なりしを以て少しく剩餘を生し、其代價は五齡中一貫目に附き十錢乃至八錢位なりし。蛆害は一般に甚しかりしも傳習所は豫め好位置の桑園を買入置きたるを以て、其害甚た僅少なりし、(官報)

●吉祥女學校　明治廿二年開校以來追々世間の信用も厚く生徒の數も增加したるにより、同校は近頃教場も手挾となりしを以て、昨年增築したりしが猶次第に手挾となりたるに付き、文學教場を裁縫室に宛て辛くも間に合せ居たりしが、此程前通りの長屋を買取り取崩して其跡へ裁縫室を建築する由なり、生徒の數も目下三百七八十もありて、兩三年の中には是非完全なる一大女學校にせんと、同校協議員諸氏及び校員等孰れも熱心し居らるゝと、(函館新聞)

●水戸の醜　妓樓必要論盛に水戸に起る、瀧田某石尾某此機に乘じて、停車塲近傍に二千坪餘の地を得て妓樓營業の議を願出づ、昔は文武の府と誇稱せしの地も、亦滔々たる淫猥の風潮に抗し難き乎噫、(東京日日)




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 海外女報

●英國皇帝の御救恤　英國女皇陛下には曩に覆沒せし軍艦ヴヰクトリア號の不幸を悼ませ給ひ、溺死者の遺族へ金五千弗御賑恤あり、國民も陛下の御慈愛に感じ、官民よりの義捐金頗る多しと近着の倫敦通信に見ゆ、

●トライホン未亡人恩給金を辭す　彼のトライオン中將の未亡人、トライオン夫人はヴイクトリア號の沈沒は、全く良人の過誤に出づるものなるに而も尙ほ六百磅の恩給年金を下さる事冥加の程も畏ろしとて、一度は之をヴイクトリア號沈溺死者遺族救助金の中に寄附せんことを申出でたるも承諾を得ざりしにより、更に右辭退の旨を申出でたりといふ、（二件日日）

●匈牙利國に於ける幼稚園令　昨千八百九十二年匈牙利國に於ては、幼稚園に關する法律を發布せり、蓋幼稚園のことたる各國皆私立の團體に委任しあり、法律を以て規定せるは佛國と這回の匈牙利あるのみ、此匈牙利の新法に據れば幼稚園に於ては、三歲乃至六歲の健康兒を養護することし、而して保姆の爲には故らに敎養所を設けて二ヶ年間之が講習に從事せしむ、其他此幼稚園は特に組織せられたる監視委員の監督に屬することし、而して其委員には醫官其班に加はり居りて、衞生的意見を吐露することとなせり（大日本私立衞生會）

●支那金盥及金轎の製造費　明年舉行する慈禧皇太后六旬の萬壽慶典に際し太后の乘用に供する、金盥及金轎は目下北京內務府に於て製造中なるが、其附屬裝飾品等悉皆製造の經費は、約そ銀四十万兩なりと云ふ（官報）

●米國婦人「テムペランス」同盟會　婦人テムペランス同盟會は婦人館南方二階室の一隅に陣所を構へり、然れども固之れ寧ろ無形的の會として有形的の出陳は割合に少なし、見渡す東壁には合衆國旗旗の下に首領「ウヰラード」及び「ソーセーツト」兩女史を始とし、其外二三女傑の肖像を揭げ、室の中央には首領女史の半身彫刻肖像あり、特に尤も觀客の注視を促すは之に接する赤、白、靑色の「リボン」五卷にして、之には世界に於ける「テムペランス」會員三百餘萬人の氏名を貼附せり、次に尤も目立つは、彼の津田氏の寄送せし紀念鐘にして東壁に近く位置せり、而して室の西端には婦人「テムペランス」同盟會出版部の販賣所控へ、之に接して世界婦人「テムペランス」會員中屈指女傑の一覽寫眞屛風あり、先づ玆等が重なる見物なるべし、特に注意深きは北部に限り室內に氷水を備へ渴者を惠めり、

●シカゴ婦人會　豫て繼續し來りし婦人館事務員會議は出品審査一件は互に水掛論の一大騷動を引起し、議場の整理見込なきよりしてか終に解散したり、又た世界婦人獎勵會事務員並に當地重なる婦人連は、紀念としてシカゴへ一大婦人獎勵會館を設立する由にて、パーマー夫人之が首唱者となり近々同志者を集め協議する所あらんとす、

●萬國クリスチヤン同盟會　は去る八月十五日を以て當市ムイデース敎會に開かれたり、就中尤も有名なる代表宣敎師は英京ロンドンよりのジヨン、マクチール氏にして、之れぞ第二のスコチツシユスパルヂヨンなりとの大評判（以上每日）

●西班牙の攝政皇后　は水練の達人にして亦これを好めり、左れば王室の方々が夏を過ごし給ふ所のサンセバスチアンに於ては、皇后が每日秘術を盡して游泳し給ふを拜見せんとて濱邊は人の山を成すとぞ、御游泳の折は必ず二人の男の一艘の小舟に乘りて隨行することなるが、縱橫自在に游ぎ給ふを以て彼等が御隨行に苦むは每度のことなりと聞く、

●謀殺婦人　巴里よりの報知にイーローと云へる名高き人殺しの男に與して兇行を働きたる、ガブリエル．ボンパーは目下、入牢中なるが之を娶らんとする申込は引きも切らず、有らゆる種類の手紙は每週何本となく歐羅巴各國は愚か、亞米利加よりも來れり、中にも或る野師はボンパーが出獄の後に己の觀物小屋に出づるとあらば一週間三百弗の給料を與へ、雜用は一切此方に於て出して遣る可しと申送りたり、ボンパーは今に尙ほ己がイーローの催眠術に掛りたるものと信じ、イーローが首を斬られしと聞くや否や、生れ換りたる心地して其後は唯先非を悔ゆるのみ、己は元來イーローを怖れて嫌ふこと甚だしかりしと雖も、如何せん自ら制すること能はずして彼が命ずる所に隨ひたりと云へり、（以上時事）

●桑港の廢娼期成同盟　去月十九日夜ジユツレー町の敎會堂に相談會を開き、諸規則等を議せしが、結局諸規則編成及び運動の方針等を定めん爲め委員十名を撰擧し、同二十二日夜委員會を開きて諸規則を議了し、尙本月二日には同市の中心なるマーケツト街なるセント、ジヨーヂ會堂に於て一大演說會を開くことに決したりと云へり、

●贋札發見の妙手　英國の心理兼動物學者ジー、ジエーローメーンズの說に、婦人は男子よりも反省力に乏しきも知覺力には富みたり、馴馬に鞭て馳せ過ぐる馬車の中なる乘客の衣裳髮飾の色は云ふも更なり切の地合、靴の恰好までも一目して見取る婦人さへありと云へり、宜なり將軍スピンナーが婦人七名を合衆國大藏省に雇入れて、贋札を見出さしめたる三十年來の試驗の好結果を得たるや、ダブルユウ　エー　レナナード夫人は三十年、イー　ジー　ブラウン夫人は十八年、各々其間に合衆國通貨の位を維持せしめたる功は實に大なり、贋札は重もに觸れて知るに非ず見て知るなり、其最も多きは一弗と二弗との紙幣なり、贋札を見出す技倆は世界第一と聞えし合衆國大藏省雇入れの六千の婦人中、最も妙を得たるは即ち贋札發見課長レナナード夫人にして、夫人は三年の間に二十億弗の紙幣を手に觸れ、一日の中に千二百萬弗以上の紙幣に目を通したり、蓋し右課中の平均は一日二十萬弗より四十萬弗を見るに在りと云へり、レナナード夫人は元、學校敎師なりしが唯今の職業を始めてより三十年間の勤務は、夫人をして華聖頓府に一軒の奇麗なる家を構へ可愛らしき三人の子供に敎育を受けしめて、傍ら婦人の爲めにする鋭き筆を揮ふを得せしめ居るとかや、（時事）



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 通信

湖海子編

## ●高知縣通信

◎女學校開校式　去る十一日高等女學校の始業式を擧行せられしが、千頭中學校長には一時間余生徒の方向等に關して、訓誡を演説せられ、女學校松永教諭も亦た生徒に對して將來の方向に就き口演し其式を終れり、

◎土佐郡禁酒會秋期總會　同會は同郡土佐山村有志の前年同地に設置したる以來加盟者日に加り現員七十九名を得たり、去十日秋期總會を開くに付き、土陽新聞社の主筆安藝喜代香氏を招待し、同村西川永野命作氏邸を會場に充て、男女會員六十余名相會して、議事會を開き、十一名の新加入者の報告あり、終りて、安藝氏一場の演説をなし、后懇親會を開き、長老永野源吉氏の奨勵あり、清談を盡して、散會せり、同地方矯風上容易ならぬ影響なりときく、

◎土佐山婦人夜學會　同地教會員一柳玉枝、山本直枝兩女史の擔任せらるゝ事にして、毎週水曜日の夜、之を開く、其學科は三昧假名の讀方、小學讀本の素讀等にして、出席者大抵十余名、多くは母たる者、或は頑兒を背にする者、若くは赤子を擁する者にして、暴風或は繁忙の時と雖も欠席することなし其勤勉熱心感ずるに餘りありときく、且つ彼等は文學を知るに從ひ聖書及讃美歌等を學ばん望みを起し、自然家庭教育等に大なる利益を與ふる由眞に愉快なる事共なり。

◎中村手藝學校　同校は第二周年期に際し過日三日間教員生徒の手藝品を陳列し公衆の縱覽を許したり、今聞く處によれば、右縱覽人は男四百七十七人、女九百二人にして、出品總數は花籠十九個、藥玉十個、花茂八個、額七個、毛糸縫取三個、毛糸細工八個、通常重掛縫一個、寶物裁縫二個、裁縫雛形縫三十三個、巡掛七個、袋四十一組、帽三個、瓶花五個、鉢植三個、西洋女服大小一個つゝ、寫眞挾十三個、等にして頗る著しき進歩を呈せし由、

◎女學校長歸縣　過日來上京せし、本縣高等女學校長大石賢二氏は去十六日歸縣せらる、

◎小倉苓子　兼て基督教傳道の傍、貧民教育等に盡力し居られたる同女史は、此度家族一同にて上京せられたり、

## ●福井通信

◎根本志賀子の逝去　福井縣尋常師範學校訓導兼教員心得、根本志賀子は此程永眠せしが、子は長く仝縣師範學校高等女學校中學校等に奉職せるを以て、子の薫陶を受けたるもの尠からず、會葬者は縣立市立各學校、職員生徒、卒業生、福井婦人會員、縣官、裁判官、等無慮一千余名にして近來稀なる盛式なりし、

◎良家婦嬢の恐怖　北陸鐵道は第四議會の協贊を得て本年度より着手する事となり、既に縣下敦賀地方へは數千名の工夫入り込み來れり、醫家の細君を捕へ强姦を爲したりとの風説ありて婦嬢の恐怖大方ならず、敦賀町役場よりは婦人は深夜獨行せざる樣町民へ警告したりし、其筋にては今一層の取締りあらまほしき事にこそ、

◎女教師　鈴木けい子は、福井縣高等女學校舍監兼教員心得を命ぜられ、三級俸を支給せられたりし、

◎賣淫狩　近來其筋にては矯風上の注意頗る厚く密賣淫の如き嚴重に搜索逮捕して毫も假借する處なく、爲めに近頃柳陰暗き處行人の袖を引くの醜躰は、殆ど地を拂ふの有樣あるは何より喜ぶべし、

◎荒川知事の夫人　本縣知事荒川氏の夫人は、甚だ佛教篤信にして近頃當地巡錫中の、大洲鐵然師を自宅へ聘し、各官吏の夫人令孃を招き説教を聽聞せりと、

◎在監囚人　本年八月末日福井監獄署在監現員は、四百六十六人（男四百二十八人女三十八人）にして之を細別すれば囚人四百五人（男三百七十人女三十五人）懲治者一人（男）別戸方留置者二人（男）携帶乳兒一人刑事被告人五十七人（男五十四人女三人）之を昨二十五年八月末日に比すれば男三十七人女一人を增加せりと云ふ、

# 孤兒之友

## 泣血有志の諸士に訴ふ

畜拗子編

去る八月廿三日以來當縣下に於ける洪水は稀有災害にして大震災に勝り其慘狀既に新紙上に於て諸士の知らるゝ所ならん其慘憺たる中に於て最も憐むへき者其慈親に生別せし孤兒又一朝にして家産を蕩盡せし者の貧兒ならん此可憐兒豈に苟且に附すへけんや孤兒救濟の必要今更贅言を要せず然るに震災の當時を追思すれば孤兒の救濟窮民衣食の供給は内外人を問はす相愛相憐の聖彼等をして其厚意に感泣せしめたり如何にせん人間の不完全なる遂に震災不始末の結果を現出するに至る然る故か今回の水災既に數週日を經過し其慘狀を目擊するも知らざるものゝ如く孤兒の救濟窮民の救助に手を出すに躊躇せるものゝ如し何ぞ先きに厚くして後に薄きや是れ不始末の結果を眼前に見るか故ならん然りと雖ども今此慘狀を座視するは吾人の忍ひざる所故に我儕は新に救濟の事業を取るにあらず震災以來救濟の結果として主の名により立られたる在大垣孤兒自助會の中に尤も可憐の孤兒貧

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒を救濟教養せしめんとて既に罹災地へ派出救濟をなし居れり抑も自助會は諸士の知らるゝ如く創立以來自助の精神を以て成長なし來り目下六十三名の中二十名の自活者と寡婦卅四名の自活者を出して幸運に進み尙ほ前途有望の中に在り然りと雖とも未た獨立を以て其救濟を取ふ能はす玆に諸士に訴へて孤貧兒の爲め一滴の愛涙を切願す

但金品御惠送の諸士は屑書宛御送達を乞ふ

明治廿六年九月

岐阜縣大垣町自助會內
水害罹災孤兒救濟所
富田元資　尾形虎三
岩田義定　宮崎利道

## ●栃木縣那須野曉星園

曉星園長本鄉定次郎氏が夫人、此程上京せられ社員を訪はれたり、其節曉星園の近況を夫人より親しく聞得たれば玆に其要を槪述すべし

同園は信州の蠶家相馬愛藏氏より蠶種の寄附を受けしに付き之を女子部の働きとして飼育せしに該蠶は七月十五日に上簇せしが意外なる良好の繭を得撰物たるのみを五十圓に賣拂へり右の價格は同地最高のものにて繭質も亦た該地の第一位を占めたり神は彼の人々を顧み玉ふて如此く不馴手より最上の繭を生ぜしめ玉へり一同感謝の念禁ずる能はず其所得は同園事業初穗の禮物として窮民の爲め一の施療院を設け神に捧ぐるとこ決心せりと云ふ

又同園長本鄉氏は去月來同園獨立を計り資本の寄附金募集の爲め各縣下へ遊說せられたるが、近來各地に於て多くの同情者起り今や寄附金四百圓以上に達せしと云ふ、殊に博愛家竹內房治郎氏の如きは、同園の事業を太く贊成せられ金二百六十圓を集めて喜捨せられ、目下同院は諸部の家屋新築に多忙なりと、又同園理髮部の如きは非常に好結果を得て月々拾數圓の收入ありと云ふ


孤女學院

編物製品

封筒　卷紙品々　綿絲


## ●孤兒之友取次義捐金第十一回報告

金三百五拾貳圓六拾壹錢八厘　第十回迄取次高合計
金五圓也　横濱市某君　岡山孤兒院へ
金五圓也　同　同　孤女學院へ
金八錢五厘　東京無名氏　孤兒の友準備金の內へ
金拾錢　茨城縣某女史　曉星園へ
金拾錢　高知縣大脇克信君　同
金拾錢　同　由比直枝君　同
金拾錢　同　松井久吉君　同
金拾錢　同　廣瀬潔水君　同
金拾錢　同　伊藤貫一君　同
金拾錢　同　田島賢藏君　同
金拾錢　同　菅　和君　同
金拾錢　同　大脇辨太郎君　同
金拾錢　長崎縣和知牧太君　同
金拾錢　山口縣間宮小五郎君　同
金五圓也　横濱市某君　孤女學院へ
金四錢　東京無名氏　孤兒の友準備金の內へ

合計金三百六拾八圓八拾四錢三厘


## 廣告

**岡山孤兒院月報**

右御望みの方は毎月郵券貳錢御送付被下候得者毎號御送可申上候

岡山縣岡山門田屋敷
**岡山孤兒院**


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 隔週 評論 發行

## 第拾參號

要目

氣風論

方今宗派論　巖本善治
思想の聖殿　北村透谷
成功の生涯　植村正久

兆民居士安くにかある　透谷
ストウ女史小説中一節　若松賤子
井上文部大臣の公敵　撫象
日本の花嫁と田村直臣　次郎

軒端の桐（新歌）　戸川殘花
不香花（小說）　田邊花圃
マコレー（批評）　三浦流水

條約改正論

明治廿六年九月廿三日發兌

本誌代價
六冊　前金三十五錢　府外三十八錢
十三冊（半年）同　七十三錢　同　七十八錢
廿六冊（一年）同　一圓三十錢　同　一圓四十三錢
一冊金六錢　郵稅　金五厘

發行所　東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

發兌定價

每月三日、十八日、二回發兌
十月三日　百十九號出版
一冊　金五錢
十二冊（半年）　金五十五錢
廿四冊（一年）　金壹圓
郵稅一冊　金五厘

創業已來今日まで未だ曾て一日も延刊したることなし。前金にあらざれば發送せず。見本は郵券六錢を要す。爲替拂渡局、駒込郵便局、

九月十八日發兌　第百拾八號

目次

卷首の●フレデリック大
插畵●王の逸事
少年園●園話（三則）
學園●養生談　醫學士 山縣正雄
●宇宙の無限
文園●蟬（新躰詩）
烏公達（少年狂言）　玉茗堂主人
セイラ、クルーの話　霞城山人
若松賤子
譚園●大王を救ひたる貧少年（フレデリック大王の肖像入）
●船中の大蛇（插畵）
叢園●スマイルス氏と自助論○世界の君主（西班牙國王アルフォンソー第十三世肖像入）○數の考物
懸賞少年新誌　第壹號
芳園●寄送文六篇

發行所　東京府下北豐島郡上駒込村十九番地　少年園

# 文學界

## 第九號要目

九月卅日發行


嫖蕩兒を愍みて柳里恭を喚ぶ　天知
山家漫言　秋骨
なりひさご、一。　むせい
茶のけふり（續）　古藤庵
月はおのれ　残花
眠れる蝶　透谷
時文
マコーレー。荻生徂徠。空想窟。心の闇。其他。
伊勢家集　大和田


本誌第八號より『遞信省認可』になりたれば地方郵税を一冊五厘に改正す

定價

| | 東京市内 | 郵税市外共 |
|---|---|---|
| 一冊 | 六錢 | 六錢五厘 |
| 六冊 | 三十三錢 | 三十六錢 |
| 十二冊 | 六十錢 | 六十六錢 |

東京市麹町區下六番町六番地　文學界雜誌社


蔦廼舍主人撰

修正百首

# 修正小倉百首

實價　金四錢　郵税　金二錢

我國婦女の毎春弄牌小倉式紙なと弄じ之れを暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は烏保不爲在原業平小野小町一流の人物を深く慨して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其集二百八十有餘集にして一の戀歌なし、仁齋是を天皇に奉りたるものなりと云ふ。


| 女學雜誌代價 | | | |
|---|---|---|---|
| 六冊 | 前金 三拾五錢 | 府外 三十八錢 | |
| 十三冊（半年） | 同 七拾三錢 | 同 七十八錢 | |
| 廿六冊（一年） | 同 一圓三十錢 | 同 一圓四十三錢 | |
| 一冊 金六錢 | 郵税 金五厘 | | |

| 廣告料及無料廣告 | | |
|---|---|---|
| 一行（廿七字詰） | 一回 前金 | 拾錢 |
| 同 | 三回以上 | 一割引 |
| 同 | 六回以上 | 二割引 |

〇十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上四割引
但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く〇特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるものにて一切無料さす但紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增さ定む。


明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年九月廿九日印刷
明治廿六年九月三十日發行

發行兼編輯者　東京市麹町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　全牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地　根岸高光
發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社
印刷所　全牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　秀英舍工塲（電話十九番）


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY